

学生海外発表渡航費助成 成果報告書

2020年1月6日

大阪府立大学大学院 工学研究科 機械系専攻 博士前期課程 2年

清水 歩実

今年12月、日本伝熱学会からの支援を受け、The 2nd Pacific Rim Thermal Engineering Conference (PRTEC2019)に参加し、研究発表を行いました。学会はアメリカ・ハワイ州・マウイ島のHyatt Regency Maui Resort and Spaにて、12月13日から12月17日にかけて開催されました。国際学会は初めての経験であり、準備から本番に至るまで、たくさんのことを学ぶ良い機会となりました。今回の海外出張を通して経験したことを、以下に紹介いたします。

学会での発表

PRTECは、日本、アメリカ、韓国の機械学会による共同会議であり、およそ400人のプレゼンターが参加されていました。日本人の学生参加者がもっとも多く、そのため初めての国際学会であっても不安を感じることは少なかったです。

私は12月14日の11:00-11:20に自身の研究発表を行いました。ChairmanはU/WisconsinのRyo Amano氏であり、発表題目は「Turbulent flows over porous media with structural roughness k- and d- type」でした。持ち時間は、発表15分、質疑応答5分の計20分でした。発表用のスライドや原稿は、学会前に研究室のメンバーに見てもらい、先生方から添削も受けていましたが、初めての国際学会ということもあり、発表の直前までとても緊張していました。本番ではゆっくり大きな声で話すということだけを意識し、無事問題なく、練習通りの時間配分で発表を終えることができました。

私の研究内容は、粗さ構造を有する多孔体界面の乱流現象の特徴を、実験を通して議論するというもので、質疑応答では実験モデルの構造等に関する質問が多く寄せられました。須賀教授のフォローに助けられる形で、5分の質疑応答を終えましたが、自分の英語力の不足を痛感しました。

学会の手伝い

本学会では、複数の日本の大学の学生が、受付や講義室を一日半程度任せられました。私は講義室の担当であり、仕事はさほど多くはなかったですが、自分の研究とはあまり関わりのない分野の発表を自ずと聞くことになり、とても良い機会になったと考えています。特に実験をされている研究の方の話は、どういった点で躓き、どういった方法でそれを解消したのかというプロセスの点で、研究目的は異なっても非常に参考になりました。

マウイ島

マウイ島はハワイ諸島の中で2番目に大きい島であり、島の東には休火山であるハレアカラ火山がそびえ立っています。一年を通して温暖な気候であり、冬の学会であっても荷物が少なく済みました。

学会会場である Hyatt Regency Maui Resort and Spa は、ビーチに面している大きなリゾートホテルで、中を探索するだけでも十分楽しめるほどでした。昼食は日曜のぞいて学会会場でするようにしていましたが、晩は会場の外へ食べに行くことが多かったです。物価は少々高めでしたが、ショッピングモールのフードコートに行ったり、スーパーで簡単なものを買ったりなどして、現地の人に紛れながら食事をするのも楽しかったです。日曜の午後はフリータイムだったため、同行していた先輩や他の大学の方と、ビール工場に見学に行ったり、市街地にお土産を買いに行ったりなどしました。工場の方や店員さんと、拙い英語でもコミュニケーションを取ることができ、楽しい思い出になりました。

最後に

初めての国際学会ということで、不安な気持ちも多くありましたが、学会という一つのけじめを頂くことで、自分の研究に今一度しっかりと向き合う良い機会になったと思います。発表を終え、他の先生方と英語で議論する能力はまだ自分には不足していることを痛感しましたが、この悔いを糧に語学学習においても更なる研鑽を積みたいと思います。

また、このような特別な機会を得られるきっかけを作ってくださった須賀教授、金銭面で多大な援助をしてくださった日本伝熱学会にこの場を借りて感謝申し上げます。



学会会場の様子



昼食会場の様子